

## 教育センター便り

長野市教育センター  
長野市大字鶴賀550番地2  
TEL 026-226-7486  
FAX 026-264-7570  
責任者 今井 睦俊

俳句の授業から

裾花中学校 三年

一組 石段のお土産店の

ラムネびん (大峡 淳平)

二組 期待する 姉との再会

夏の富士 (鮎澤 萌)

三組 寝る前に アイスコーヒー

問題集 (高田 恭一)

四組 炎天下 日に日にたまる

ハズレ棒 (久保田 菜靖)

五組 シャーペンの 音だけ響く

夏の夜 (山口 莉依紗)

六組 家で飲む しゅわしゅわ光る

ソーダ水 (坂井 琴美)



### しなのきプラン

教育次長 勝野 学



しなのきプランは、教育振興基本計画の9か年の実施計画として、平成27年度にスタートしました。当時のしなのきプランの特徴は、

- ・「0歳～18歳の一貫した教育」
- ・「長野市の学力観を定義し、数値化したこと」

の2点でした。

一つ目の「0歳～18歳の一貫した教育」とは、キャリア教育を中心に、自立した18歳を見据えて各学校種の円滑な接続に配慮したものでした。これは、キャリア教育の充実を図るとともに、例えば、学びを繋ぐ学校種間「幼保小中高」の連携も大切にし、小1プロブレム、中1ギャップ、高1クライシスなどと言われている、入学時の壁の弊害を少なくすることでした。

平成26年に「小学校1年生できちんと椅子に座ってられない児童」は29%（学習習慣形成調査）でしたが、令和4年度は、17.9%となりました。また、小6から中1で、「不登校在籍率」「いじめ認知件数」「暴力行為件数」の増加は、平成26年では、それぞれ3倍、2倍、8倍でしたが、平成4年度は、1.8倍、0.9倍、1.7倍という増加でした（※現在は、不登校在籍率、いじめ認知件数に対する考え方は、変化しています）。さらに、高校1年での中退率は、平成26年は1.6%でしたが、令

和3年度は、0.8%でした。

二つ目の「長野市の学力観を定義し、数値化したこと」に関しては、子どもたちの目指す姿を共有し、学力のバランスの重要性を大事に考えました。

学力を「木」に例え、知識・技能・活用・思考力・判断力・表現力等を、「葉」や「幹」と考え、特に「根」である意欲や態度を重視しました。具体的には「将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力」「自己をコントロールする力」「他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力」「粘り強く課題に対応し、行動する力」などです。これらの力を全国学力学習状況調査の質問紙から数値化し、平成26年度と令和5年度を比較すると、どの力も概ね上昇傾向にあることがわかりました。

9年間のしなのきプランは、3年毎に見直しを行い、本年度で終わります。本プランの視点も時代とともに見直す必要に迫られています。

この9年間で、人口減少の加速、コロナ禍、GIGAスクール構想、価値観のさらなる多様化等、時代も大きく変化し、予測困難な激動の時代に突入しました。社会の変化に伴って、不易流行を大事にしてきた教育も、変化の兆しがみられます。

そこで、今、改めて子どもを観る目、教育観を見つめ直し、明治からスタートした義務教育は、昭和の教育、平成の教育を経て、令和の教育として何を大切にしなければならないのか。未来から授かった子どもたちを未来へお返しするために、大人は、もう一度子どもに学ぶ時がきたと思います。

## 初任者研修「夏期研修」

7月25日～27日の3日間、夏期研修を実施しました。初任者が、様々な体験的活動を通して、教師と子どもの両方の視点で考え、学び合うことができました。



### 【3日間の研修内容】

- 25日 ・ 自己課題追究研修  
・ 近藤守教育長職務代理者の講話
- 26日 ・ 防災教育研修  
・ 地域素材研修（田辺智隆先生）
- 27日 ・ 松代地区班別研修 ・ 振り返り研修  
・ 夏季大学（希望講座を選択）

### 【夏期研修全体を通しての感想】（抜粋）

- 今井所長から、「自ら求める」という話があった。自分のできたことや、まだ足りていない部分を3日間で求めることができたと思う。
- 3日間を通して、同期の先生たちとの仲が深まりました。実際に体験することで表面でしか捉えられていなかった「ものの本質を見ること」の大切さを学びました。2学期からも子どもがおもしろいと思えるように、子ども一人ひとりと向き合い努力し続けていきたいと思えます。子どもの気持ちに寄り添う指導を行いたいです。
- 本研修では、同じ初任の先生方と多くの時間を過ごし、先生方の様々な考え方や授業実践に刺激を受けたとともに、お互いに相談することもできて、2学期に向けて前向きな気持ちになれました。
- たくさんの体験を通すとより学びが深まると実感しました。2学期は子ども達へはもちろんですが、教材、周りの先生方、支えてくれる保護者、地域の方などに「愛」をたくさん込めて接していきたいと思えます。

3日間を通して研修の運営を班ごとに担当し、会の進行や受付等も協力して行いました。自分達の研修をよりよいものにしていこうとする主体的な姿が多く見られました。（両角 宏和）

## 生成AIの学校での活用に向けて

7月に暫定的なガイドラインが出た今話題の生成AI。早速関連するセンター研修の中で扱っていただきましたので、その一部をQ&Aでお届けします。

信州大学 小山茂喜先生の講義より  
（研修講座「教育ICT活用とセキュリティーのツボ」）

### ChatGPT の性格はどんなものかな？

- ・プロンプト（指示出し）で出力が変わる
- ・期待の出力が得られなくても対話を通して修正を促せる
- ・デタラメを言うことがある
- ・同じ問いかけに対して必ずしも同じ答えが返ってこない
- ・出力にゆらぎを与えるパラメータが存在
- ・情報源を示さない（Bing AI等一部では示してくれる）

### 児童生徒が ChatGPT を使うとしたら？

- 1 留意すること
  - ・プライバシー（個人情報を入力しない）
  - ・公平性（指示の仕方に注意）
- 2 問題解決の場面における批判的思考の育成が重要
  - ・作成されたデータを鵜呑みにしない
  - ・出典を確認する ・ アイデア創出の支援
- 3 レポートの等の添削や個別指導の支援に効果的

### 教師が ChatGPT を使うとしたら？

- 1 課題の原案を作ってもらう
- 2 多肢選択問題を作ってもらう
- 3 教育技法について聞く
- 4 試験問題（間違った説明文）を作ってもらう

常葉大学 酒井郷平先生の講義より  
（研修講座「学級担任が取り組む情報モラル教育の基本」）

### 生成 AI に対する懸念は？

- 2つの懸念があります
- ① AIがどのようにデータを学習しているか（透明性に関する懸念）
  - ② 機密情報や個人情報の流出がされていないか（信頼性に関する懸念）

### 生成 AI を学校で活用する基本方針は？

- ① 活用が有効な場面を検証しつつ、限定的な利用から始めることが適切。一部の学校においてパイロット的な取り組みを進め、成果・課題を十分に検証し、今後のさらなる議論に資することが必要。
- ② 学校外で使われる可能性を踏まえ、全ての学校で情報の真偽を確かめること（ファクトチェック）の習慣づけも含め、情報活用能力を育む教育活動を一層充実させ、AI時代に必要な資質・能力の向上を図る必要がある。
- ③ 教員研修や校務での適切な活用に向けた取り組みを推進し、教師のAIリテラシー向上や働き方改革に繋げる必要がある。

### 情報モラル教育の文脈で必要なことは？

- ① 情報の見極め方や情報検索の方法
- ② 個人情報、プライバシー等情報セキュリティ
- ③ 生成系AIの基本的な仕組みの理解
- ④ 著作権や法律に関する理解
- ⑤ 新しい情報技術が出た場合の対応法（モラル）  
→ルールが制定まで、どのようにトラブルを回避する？

（中澤 康匡）

**令和5年度 教育研究委員会の授業公開一覧**  
長野市教育センター教育研究委員会

| 委員会                         |  | 期日<br>◇授業公開<br>○研究会 | 学校名<br>授業者                         | 学年・組<br>単元名等  | 授業内容 |
|-----------------------------|--|---------------------|------------------------------------|---|------|
| <b>共通テーマ 「自学自習の資質能力の育成」</b> |  |                     |                                    |   |      |
| 研究委員会<br>道徳教育               | 委員会テーマ 『自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成 ～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～』 |                     |                                    |   |      |
|                             | 10月13日(金)<br>◇14:00～14:45<br>○15:00～15:45                          | 寺尾小学校<br>山田 大 教諭    | 6年<br>「ロレンゾの友達」<br>(友情・信頼)         | 三人の友への考え方から、本当の信頼や友情とは何か考える。  |      |
| 研究委員会<br>国語科                | 委員会テーマ 「自らの学び・友との学びの楽しさを実感できる国語の授業へ～学びの連続性に視点をあてて～」                |                     |                                    |   |      |
|                             | 9月7日(木)<br>◇9:45～10:35<br>○10:50～11:40                             | 東部中学校<br>中村 直樹 教諭   | 1年2組<br>「父の言葉」<br>(思いやり・感謝)        | 生徒の考えを基に、追究しながらねらいとする道徳的価値について考えを深められるような授業の実践。                                     |      |
| 研究委員会<br>社会科                | 委員会テーマ 「社会とのつながりを感じ、自らかかわっていく児童・生徒の育成を目指して」                        |                     |                                    |   |      |
|                             | 9月28日(木)<br>◇13:55～14:40<br>○14:45～15:30                           | 芹田小学校<br>大輪 美香 教諭   | 4年2組<br>「ごんぎつね」                    | 言葉と行動に注目し、友達と考えを共有し合いながら、ごんと兵十の思いにせまる。  |      |
| 研究委員会<br>算数・数学科             | 委員会テーマ 「子どもたちの主体性を育む算数・数学の支援～自ら追究し、振り返り調整することを通して～」                |                     |                                    |   |      |
|                             | 10月12日(木)<br>◇10:40～11:30<br>○11:40～12:30                          | 櫻ヶ岡中学校<br>樋口 達也 教諭  | 2年5組<br>「モアイは語る」                   | 既習の経験や知識と関連付けることで、見通しをもって説明的な文章を読み、成長を実感できるようにする。                                   |      |
| 研究委員会<br>理科研究委員会            | 委員会テーマ 「子どもたちが主体的に問題を考えていく理科学習」                                    |                     |                                    |   |      |
|                             | 11月16日(木)<br>◇14:40～15:25<br>○16:00～16:45                          | 長沼小学校<br>小田切洋輔 教諭   | 3年<br>「はたらく人とわたしたちの暮らし」            | 子どもが体験・経験をもとに自他の願いをかかわらせて考える社会科学習。  |      |
| 研究委員会<br>外国語科研究委員会          | 委員会テーマ 「子どもが動く！心が動く！英語の授業づくり～子どもが主体となる授業の工夫～」                      |                     |                                    |   |      |
|                             | 10月26日(木)<br>◇9:45～10:35<br>○10:50～11:40                           | 東部中学校<br>池田 遼 教諭    | 3年<br>「これからの人権保障」                  | 生徒が必要感を持って探究できるような課題設定や授業展開を構想するとともに、個別最適学びを実践する。                                   |      |
| 研究委員会<br>体育・保健体育科           | 委員会テーマ 「子どもたちの主体性を育む算数・数学の支援～自ら追究し、振り返り調整することを通して～」                |                     |                                    |   |      |
|                             | 9月29日(金)<br>◇13:55～14:40<br>○14:50～16:40                           | 古牧小学校<br>和田 聖国 教諭   | 1年4組<br>「3つの かずの けいさん」             | 子どもたちが数学的な見方・考え方を働かせながら、数学的な表現を用いて、自らの考えを語る授業                                       |      |
| 研究委員会<br>外国語科研究委員会          | 委員会テーマ 「子どもが主体的に問題を考えていく理科学習」                                      |                     |                                    |   |      |
|                             | 10月23日(月)<br>◇10:50～11:40<br>○11:50～12:40                          | 東部中学校<br>太田 裕一 教諭   | 2年3組<br>「図形の調べ方」                   | 「生徒と創る授業」から「生徒が創る授業」への発展を目指し、生徒同士の「教え合い」と、黒板の前を生徒に開放し「考えの発表」ではなく「説明し理解してもらう」場面を仕組む。 |      |
| 研究委員会<br>外国語科研究委員会          | 委員会テーマ 「子どもが動く！心が動く！英語の授業づくり～子どもが主体となる授業の工夫～」                      |                     |                                    |   |      |
|                             | 9月4日(月)<br>◇10:50～11:35<br>○11:40～12:25                            | 緑ヶ丘小学校<br>齋藤 有人 教諭  | 4年1組<br>「電流のはたらき」                  | 乾電池を2個つなぐと、モーターの回る速さはどうなるのかをグループで考え、発表をする授業   |      |
| 研究委員会<br>外国語科研究委員会          | 委員会テーマ 「子どもが動く！心が動く！英語の授業づくり～子どもが主体となる授業の工夫～」                      |                     |                                    |   |      |
|                             | 11月9日(木)<br>◇9:45～10:35<br>○10:45～11:35                            | 川中島中学校<br>小坂 和也 教諭  | 2年6組<br>「天気とその変化<br>気象の観測」         | 気象の単元の導入で、実際に上空の気温や湿度などを計測し、気象の特徴を考えていけるような授業。                                      |      |
| 研究委員会<br>外国語科研究委員会          | 委員会テーマ 「子どもが動く！心が動く！英語の授業づくり～子どもが主体となる授業の工夫～」                      |                     |                                    |   |      |
|                             | 10月5日(木)<br>◇13:45～14:30<br>○14:50～15:35                           | 篠ノ井東小学校<br>宇野田俊希 教諭 | 4年1組<br>「Unit 7 What do you want?」 | 「自分の思いを伝えたいと願う言語活動の設定」～子どもが楽しそうに英語を話す授業を目指して～ICTを活用することで子どもたちの協動的な学びを促していく。         |      |
| 研究委員会<br>外国語科研究委員会          | 委員会テーマ 「子どもが動く！心が動く！英語の授業づくり～子どもが主体となる授業の工夫～」                      |                     |                                    |   |      |
|                             | 10月30日(月)<br>◇13:45～14:35<br>○14:45～15:35                          | 飯綱中学校<br>湯澤 成実 教諭   | 3年3組<br>「Unit 5 Plastic waste」     | 「子どもの問いで進む授業」～生徒が自らの姿を振り返りながら、さらに課題を追求していけるよう、振り返りを活用した授業を目指して～                     |      |
| 研究委員会<br>体育・保健体育科           | 委員会テーマ 運動の多様な関わり方を視点に、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成             |                     |                                    |   |      |
|                             | 11月27日(月)<br>◇14:30～15:15<br>○15:30～16:20                          | 篠ノ井西小学校<br>村松 崇志 教諭 | 6年1組<br>「体づくり運動」                   | 子どもが課題や願いをもって、自分のペースで取り組む体づくり運動について考える  |      |
| 研究委員会<br>体育・保健体育科           | 委員会テーマ 運動の多様な関わり方を視点に、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成             |                     |                                    |   |      |
|                             | 10月19日(木)<br>◇13:35～14:25<br>○14:40～15:40                          | 裾花中学校<br>山本 一博 教諭   | 2年1組<br>「球技(ベースボール型)」              | 守備では、仲間と確認しながら連携して守り、打撃では、仲間と協力しながら、バッティング動作の上達を目指す授業を構想する。                         |      |

☆参加申込は校支援文書管理で送信(8/18付)してある「FAX参加申込票」を、その都度コピーしてお使いください。(参観のみも可能です)  
☆お問い合わせは、TEL 223-0070 長野市教育センター研修研究担当まで。(宮澤剛彦)

# 令和5年度 標準学力検査(NRT)結果を 生かした指導の改善充実に向けて

## 1 標準学力検査（NRT）の目的

長野市では、平成15年からNRTを実施しています。目的は、児童生徒の学力の定着状況から課題を把握し、指導改善や教育課程の改善に生かすこと、児童生徒の学力や学習状況を把握し、基礎学力の定着や児童生徒の自学自習の資質能力を育むための授業づくり等に役立てることです。

## 2 長野市全体の結果から見た、各教科の指導の改善充実の方向

### (1) 今年度の長野市全体の結果について

長野市全体を見ると、各学年・各教科において、全国平均並みとなっております。今後もさらに各校での指導の改善充実が進められるよう、NRT結果を基に各教科で分析し、各教科の「本年度の授業改善の方向」を決めました。各校での指導の改善充実の視点としてご活用ください。

#### 長野市で大切にしたい本年度の授業改善の方向

##### 提案①

話し合い活動の場面で、友と意見を共有しながら、深い学びにつながる協働的な学びの充実を推進

##### 提案②

対話活動を通じた探究的な学びの場を設定し、学びの質を高める授業改善の推進

##### 提案③

教科以外の場面でも、対話活動を通じた子ども同士の関わり合いを大切に、安心して自分らしく過ごせる「人間関係づくり」の推進

### (2) 本年度の各教科の授業改善の方向について

**国語：相手や目的を明確にし、友との対話を通して  
文章を推敲する場面を設定しましょう**

【Point】 単元のゴールイメージを共有し、個に応じた目標を設定する

例：小4年「もしものときにそなえよう」【参考：国語四下（光村）P105～P111】

【単元の導入～課題設定の場面～】

教師「最近、大雨や地震など、さまざまな自然災害のニュースが取り上げられています。みなさんの家庭では、自然災害に対してどのようなそなえをしていますか？あるいは、自然災害に対するそなえについて、くわしく知っておきたいことはありますか？」

児童A「私の家では、もしもの時にすぐに避難できるように、防災バッグを玄関のそばに置いているよ。」

児童B「私の家では犬を飼っているけど、避難するとなったらどうすればいいだろう…。」

教師「前もって準備を整えておくと、いざという時に落ち着いて行動ができそうですね。自然災害に対して必要なそなえを調べて、いろんな人に伝えましょう。今の段階で、どんなことを調べて、それをどんな人たちに伝えたいですか？」

児童B「犬と一緒に避難するときにはどうしたらいいか調べたいです。」

「調べたことは、ペットを飼っている友達や地域の人にも知ってほしいです。」






単元の導入場面で、「調べたことを伝える」という単元のゴールイメージを全体で共有した上で、「どんなことを、何のために、誰に伝えたいか」など、子ども一人ひとりの目的意識や必要感に応じて個人の目標を設定しましょう。その際に、友との対話を通して考えることで、複数の視点や考え方を参考にしながら、自らの目標や課題を設定していくことができます。また、日常生活の中にある問題を振り返り、それを解決するためにはどうしたらよいか、誰に向けて発信するのがよいか、どのような表現だと伝わりやすいのかなどを考えて言語活動を進めていくことで、個に応じた主体的な学びが期待できます。

**社会：児童生徒が問いや興味・関心を持てる資料提示を通して  
学習問題を子どもたちとつくりましょう**

**【Point】 学習問題を子どもとつくる**

児童生徒が「おや?」「どうしてだろう?」と思える資料提示をして興味・関心を高め、子ども同士で話し合ったり、考えを自由に出し合ったりしながら学習問題をつくりましょう。また、調べたことについて、資料を活用してまとめる場面を設定しましょう。

**【小3：家事からくらしを守る】**



**過去10年間の火災の推移**

| 年度    | 消防局管内 | 長野市 |
|-------|-------|-----|
| 平成25年 | 200   | 182 |
| 平成26年 | 194   | 177 |
| 平成27年 | 138   | 125 |
| 平成28年 | 124   | 117 |
| 平成29年 | 113   | 98  |
| 平成30年 | 159   | 144 |
| 令和元年  | 135   | 120 |
| 令和2年  | 100   | 91  |
| 令和3年  | 100   | 85  |
| 令和4年  | 94    | 88  |

「令和4年度長野市消防局における火災の状況（速報値）について」より

この映像を見てください。

ストーブから火が出て、近くにあるカーテンが燃えはじめた。火が回るのが早い！少し前にも火事のニュースを見たよ。

長野市の昨年度の火事は88件でした。10年前と比べて数はどうなっていると思いますか。

10年前は100件より多い気がする。火事の件数はどう変わってるのかな？

長野市の資料を見てみようよ。

えっ！今より100件くらい多いよ。どうしてこんなに少なくなったのかな？どんなことをして火事を減らしたのか知りたい！

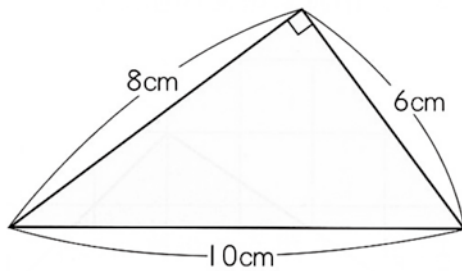
消防署の人がどのようなことをしてるのか調べてみようよ！

**算数・数学：複数の式や見方を基に、その考えについて対話を通して  
共有する活動を仕組みましょう**

**【Point】 様々な考え方ができる場面設定をする**

児童・生徒は与えられた数量すべてを使わなければいけないと考えたり、公式に対応する数量の理解が不十分なまま形式的に処理を行ったりしてしまふことがあります。そこで、意図的に必要以上の情報を示すことで、解決への多様なアプローチを引き出します。そうすることで、公式の用語の意味や、数量の関係などに着目して、より深い理解を促すことができます。

【具体例】 次の三角形の面積を求める式と答えを書きましょう。



【参考：わくわく算数5（啓林館）】

正しい式や答えを議論することも大切ですが、“底辺”や“高さ”といった用語の意味や、その数量の関係を問うことで、深い学びに迫ります。



私は  $10 \times 8 \times 6 \div 2 = 240(\text{cm}^2)$  と考えました。  
→ 示された長さをすべて使っている。



私は  $10 \times 8 \div 2 = 40(\text{cm}^2)$  と考えました。  
→ 水平な辺が底辺であると思っている。



6 cm の辺を底辺と考えると、高さは 8 cm なので  
 $6 \times 8 \div 2 = 24(\text{cm}^2)$  と考えました。



8 cm の辺を底辺と考えると、高さは 6 cm なので  
 $8 \times 6 \div 2 = 24(\text{cm}^2)$  と考えました。

三角形の面積を求める公式は (底辺) × (高さ) ÷ 2 ですが、底辺、高さとはどこを指すのでしょうか。



### 理科：要因を考えながら問題解決に取り組む場面を設定しましょう

【Point】 要因に注目しながら、解決の見通しを立てられるようにする

主体的に学習に取り組むために、児童生徒が「どうなっているの？」と問いをもつことがポイントです。そして、結果に影響を与える要因を予想できるような事象提示や体験活動を導入に取り入れることで、「○○や◇◇が影響しているかもしれない」と予想が立てられ、条件制御の考え方を働かせながら問題解決の見通しを立てることができます。

【具体例】 単元『ふりこの運動（小5）』※小6実施 4 関連

**導入場面** (校庭) ブランコが10往復する時間を競う活動を行う。 ※体験活動  
児童「あれ、どれもほぼ同じ時間になっているよ」  
児童「ブランコが往復する時間は何に関係するのかな」  
『ふりが往復する時間は何に関係するのだろうか』 ※学習問題の設定



**予想場面** 児童「おもりを変えても変わらない気がするな」  
児童「振り子の長さを変えればいいんじゃないかな」

**問題解決の見通しを立てる場面**

先生「1往復の時間に何が影響しているかを確かめるには、どのような実験をしたらよいか」  
児童「『おもりの重さ』を20g、40gと変えて、振り子の長さも10cmずつ変えていけばいいんじゃないかな」  
児童「変える条件は1つだけにしないと何が影響しているか分からなくなってしまふよ」



**英語：児童生徒が目的意識を持てるよう、教師や友との対話を通して児童生徒の「願い」や「問い」から言語活動を設定しましょう**

【Point】 子どもの「願い」や「問い」などを大切に、目的や場面、状況等を設定する

小6実施 11  
【参考: Here We Go! 5年 Unit9 My hero is my brother. (光村図書)】



(コウジのメモ)

- ・ わたしのヒーローはわたしの父です。
- ① わたしの父は歌手です。
- ・ かれは作曲することが好きです。
- ② かれはテニスが好きです。
- ③ かれはとてもカッコイイです。
- ④ あなたのヒーローはだれですか？

メモの中の下線部①～④の内容を英語で話すとどのようになりますか。それぞれア、イ、ウ、エと放送します。適切なものを1つずつ選びなさい。

対話を通して必然性のある場面を設定する

A: I like baseball very much. My hero is Otani Shoji. I usually watch his baseball games on TV. Do you know Otani Shoji?  
B: No, I don't.  
A: Really? He is very cool. He is a very good pitcher and batter.  
B: Great! Please tell me your hero!  
A: Of cause!


単元の導入場面では、単元を通して子どもの目的意識が継続できるように、教師とALTのやり取りを聞いたり、教師やALTと児童がやり取りしたりしながら、教師が子どもの興味・関心を把握し、子どもの「願い」や「問い」を大切に、具体的な単元目標を設定しましょう。

また、ALTの先生に伝える方法としてICT機器を用いて紹介ブックなどを作り上げることを通して、子どもが伝えたい内容をより具体的に伝えることができたり、友の作品を読んでみたいと思えるようになったり、「書くこと」や「読むこと」の有用性を一層感じる事が期待できます。友と互いの考えを共有し、深い学びにつなげていけるように授業展開を工夫しましょう。

**特別活動：授業以外の場面でも、対話活動を通した子ども同士の関わり合いを大切に、安心して自分らしく過ごせる「人間関係づくり」を推進しましょう**

【Point】 子どもの身近なテーマで考えを出し合う場を設ける

ここでは、下図のようなカードを用いて、子どもの身近なテーマについて互いの考えを出し合う場を設けます。約束として、仲間が話した内容を否定したり批判したりしないことを確認します。そのようにすることで、気軽に自分の考えを伝えることができるとともに、自分の話を周りが受け止めてくれることによる自己肯定感の高まりや、他者理解につながっていきます。

私がオススメするリラックス法は、「音楽を聴く」です。宿題などで集中力が切れてしまったときは、好きなアーティストの曲を聴くと元気になります。

【テーマ例】私がオススメするリラックス法

|       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 音楽を聴く | 動画を見る | 仮眠をとる |
| 飲食をする | その他   |       |

2～3人グループでの活動にすれば、5～10分程度でグループ全員の話聞くことができるので、朝の学活や帰りの学活の時間を活用して取り組むことができます。週に1回このような時間を設けるなど、年間の帯活動として取り組むこともできます。継続的に取り組むことで、仲間同士で意見を出しやすい環境づくりにつながります。また、テーマを工夫することで特別活動や道徳の授業として活用することも期待できます。

(丸山 拓磨)



## 教育相談室から ～つなげる・つながる～

教育相談室に申し込まれた就学相談は、多くの場合教育支援委員会での判断で一応の終結をみるのですが、その過程でいろいろなことを考えさせられます。以下、～つなげる・つながる～という視点でお伝えしたいこと、お願いしたいことを記してみます。

### ○来入児と・・・

各ケースの判断がどのように学校につながっていくのか、特に来入児の入学に際して考えさせられることがあります。来入児の就学相談は毎年申し込み全体の3割強を占めています。初めての学校生活への期待の反面、不安も大きいのだと思います。

在校生の場合は担任が替わったとしても、学校の中にはそのお子さんのストックがしっかりあります。しかし、来入児の場合はそれがほとんどないのが現実です。入学では1年生の担任も分からず、しかも園（療育施設等）生活と学校生活ではかなりのギャップがあります。そこでもっと目を向けていきたいのが、気になるお子さんの園（療育施設等）での対応や支援の方法・内容についての具体的なノウハウです。そこには園（療育施設等）の先生方が、それこそ血のにじむ思いで毎日積み上げ開拓してきた財産があるはずです。それを入学する学校につなげましょう。

### ○医療・福祉と・・・

申し込みの際の調査票に「障がいの状態 診断名 検査結果」等を記入する欄があります。医療での診断、検査結果、受けている療育の状況等を詳しく記入していただいている調査票がたくさんあります。医療と教育は違う領域と考えずに、お子さんの今までの医療情報として、そして学校での指導の手立てとして、当然一人のお子さんとしてつながりを持たせることが大切だと思います。それにはまずこちらから医療に連絡をとってみる、アプローチしてみる、ドアを叩いてみることだと思います。医療の側でもそれを待っていますし、学校での情報が当然診断や治療に役立つわけです。療育を保護者と一緒に見学したりして、相互交流をして学習支援につながりをもたせることが、いっそう効果的な指導を生み出すと思います。そして私たちの視野も広がります。

また様々な手帳の取得等、ニーズのあるお子さんにとって当然の権利として保障されている制度の活用を承知しておらず、教育や生活上の便益を受けていないケースも身近にあるのではないのでしょうか。

ほんの少しだけアンテナを高く、ネットワークを広くして、クラスや学校のお子さんを支えていくことができればと思います。 (大井 透)

## 運営委員会報告

長野市教育センターの運営に関して意見を伺うための第1回運営委員会を6月6日（火）、教育センター講堂で開き、委員の皆様から質問や意見をいただきました。

### 令和5年度運営委員会委員（敬称略）

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 越智康詞  | 信州大学教育学部教授                    |
| 綿貫好子  | 社会福祉法人廣望会アトリエCoCo所長           |
| 小島孝則  | 時事通信社長野支局長                    |
| 中島功雄  | 長野県中小企業団体中央会<br>(株式会社中嶋製作所社長) |
| 横澤秀信  | 三陽中学校校長                       |
| 野澤博文  | 青木島小学校長                       |
| 長谷川功  | 若穂中学校教頭                       |
| 関川あかね | 豊栄小学校教頭                       |

ご意見・ご質問(★)と教育センターの返答(◎)抜粋

### 1 新たな研修制度について

★具体的な取り組みについて

◎教職員免許更新制度が発展的に廃止され、教職員が主体的に研修を受けることになる。個々の研修履歴を残すことが法制化された。校長面談

の場ではその研修履歴を基に教職員に対する指導・相談を行っている。

◎聴くだけでなく、グループ討議等、主体的に参加できる研修を増やしていく。法制化された研修履歴について、長野市では平成29年度から「私の研修」を配布、活用している。

★研修後、学校で研修内容を他の教員に伝えることが重要だと感じている。

★初任者研修受講者のフィードバックがベテラン教員にも良い刺激になっている。

### 2 教職員の働き方について

★研修が先生の負担にならないよう配慮してもらいたい

◎実施回数より質に重点を置いている。オンライン形式の活用等、教員の負担軽減を図っている

### 3 ICTを活用した授業について

★文字を書く機会が減ることを危惧している。

★対話の機会を減らさない工夫が必要。

### 編集後記

記録的な猛暑の中、令和5年度も上半期が終了しました。今年度予定していた空調設備の改修等が完了しました。快適にご利用いただけるよう、引き続き計画的な改修に取り組んでまいります。